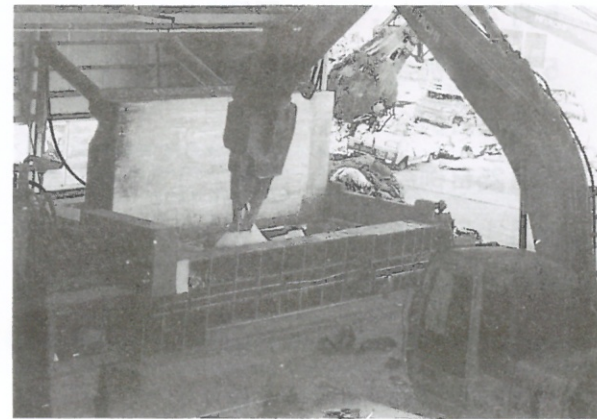




Lend a Hand

会長/山本 賢
幹事/西山 斉
SAA/小林 繁男

三條北ロータリークラブ週報

手を貸そう

例会日
2004. 4. 13
累計 No 846
当年 No 39

国際ロータリー会長 ジョナサンB.マジアベ 第2560地区ガバナー 原 信一
ホームページ <http://www.rotary2560.net>

例会日/火曜日 12:30~13:30
例会場/三條ロイヤルホテル TEL34-8111 FAX34-8114
事務局/三條市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内
TEL35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行事: 社会奉仕事業移動例会「新潟オートリサイクルセンター見学会」13:20出発
反省会 18:30~於三條ロイヤルホテル

出席: 本日の出席 60名中 46名(内記帳15名)
先々週の出席率 60名中 51名 85.00%(前年同期76.67%)

先週のメイクアップ: 4月6日 次年度親睦活動委員会(敬称略) 今村 泉、阿部勝子
丸山 勝、神田敬宏、米山キクエ、星野義男、青柳康博
本間重満
8日 3RC幹事会 西山 斉さん
10日 田上RC10周年式典 山本 賢さん、西山 斉さん
11日 地区協議会(新潟)(敬称略) 斎藤 正、小林 満
淵岡 茂、佐藤啓策、早川瀧雄、佐藤弘志、落合益夫
米山キクエ、神田敬宏

12日 三條南RCへ 中條耕二さん

ビジター: (敬称略) 三條RCより 松谷晃吉、小越憲泰、菊池 渉、熊倉昌平
渋谷正一、石橋育於、浅野金治、加藤紋次郎
三條南RCより 飯山勝義、韭澤喜一郎、住谷哲雄、吉井正孝
荒澤威彦、近藤鉄也

会長挨拶: 山本 賢会長

今日は上越にある新潟オートリサイクルセンターを見学させていただき、誠にありがとうございました。地球環境についてあらためて深く考えさせられました。そこで今日は『「地球村」に生きる』という本の中に出てくるアメリカの先住民族インディアン、スカミッシュ族の首長シアトルが当時アメリカ大統領に送ったという手紙を抜粋して話させていただきます。

今からわずか150年前、白人はアメリカ全土の征服を目指し、先住民族であるインディアンを全滅させるため暴虐の限りを尽くしていました。そんな中、首長シアトルが大統領に送った手紙の内容は



「大統領から我々の土地を買いたいと申し入れがありましたが、我々には意味が分かりません。土地、空気、水は誰のものでもないのに、どうして売り買いができるのだろう。土地は地球の一部であり、我々も地球の一部であり、地球は我々の一部です。お金に変えられるものではありません。

我々にとって、空気はかけがえのないものです。なぜなら、生き物、木々、人間、全てが同じ空気を分かち合っているからです。

無数のバッファローが面白半分に殺されました。全ての生き物を殺し去ったとき、人間が死ぬでしょう。他に降りかかったことは自分にも降りかかります。」

まさにその通りだと思います。人間が地球環境や他の生き物のことを考えず、自分たちの利益のためだけにしてきた横暴は必ず自分たちに返ってくるのです。このままでは私たちの子供または孫の未来に非常に危機感を感じます。

今回、車と地球の調和・共存を目指している新潟オートリサイクルセンターを見学させていただき、あらためて私たち一人一人が考えなければならない問題だと痛感いたしました。「知った人がやらなきゃあ、知った人が与えなきゃあ」、つまり地球を守るのは自分だということ、自分が実践することで多くの人に知らせることが出来るのです。そして、地球と共存して生きていくことが一番大切なのです。

私たち三条北ロータリークラブ社会奉仕委員会の活動の一環として、今、三条市内の中学生に環境問題に対する取り組みを募集しています。この活動を通して、これからの時代を担う中学生の皆さんが多くのことを勉強し、また実践し、今まで以上に地球環境について興味を持っていただけることを願っております。

幹事報告： なし

ニコニコボックス：	13日現在累計 919,000円
-----------	------------------

社会奉仕事業移動例会： 「新潟オートリサイクルセンター」見学会 社会奉仕委員会

今年度2560地区原ガバナーの地区方針の一環としてかけがえのない地球を守る為、「環境問題に取り組ましよう」をテーマに掲げられました。当クラブではその要旨を理解し、改めて環境について考えようと今回の見学会を移動例会として実施しました。

平成14年7月「使用済自動車の再資源化等に関する法律」（＝自動車リサイクル法）が成立いたしました。今、1年間に発生する

使用済み自動車は約400万台もありますが、産業廃棄物最終処分場はすでに限界です。メーカー側にはフロン類の回収・破壊・エアバック類の回収・破壊、シュレッダーダストのリサイクルを義務づけ、我々ユーザー側にはそれらの再資源化やフロンの破壊に必要な費用の負担を義務づける、「リサイクル料金」の負担を求めることになりました。

この機会に会員が再認識し、環境を考えてみようと思います。

又、三条市内中学校7ヵ校の環境問題に対する取り組みを募集し、表彰します。各学校に環境問題取り組みに対する、活動援助金を贈ります。

会員の声： 「老後と趣味」 梨本 清一

スポーツの、殊に格闘技が好きだ。

観て楽しむというより、自分でやらないと気がすまない質だ。だから自分の体が思い通りに動かなくなつては、お手上げである。昔はこんな筈ではなかった、などと考えるとドスーンと落ち込んでしまう。精神衛生上、こんな良くないことはない。

だから今では出来るだけそんな場面に出喰わさない様に心掛けている。

今、カメラにハマっている。一眼レフである。

カメラを持っている、というだけで胸が高鳴る。シャッターを切らなくてもよいのだ。春の野山は、何処に目をやっても被写体、自然と撮影スポットを選び構図を描く。それだけで気持ちが高鳴る。感性を司る右脳が活性化され、快楽ホルモンであるベーター・エンドルフィンが脳内分泌されていくさまが目に見える様だ。

撮影にはまず、重い機材を背負って歩かなければならない。脚力と体力が必要である。次に今のカメラは昔と違ってかなりの機能が搭載されているからそれを使いこなすことは、コンピュータを駆使するのと同じくらいの頭の回転、指先の機敏さを要求する。その上シャッターを切る瞬間は、フレーミング、コントラスト、ピント、適正絞り、露出補正など、瞬時に決断し実行に移さなければならない。

まさに体力、注意力、集中力、決断力、それに感性と様々な機能が全開となる。

近年はデジカメ全盛の時代となった。機能、性能とも日毎に向上し何時でも、何処でも、誰でもいとも簡単にしかもきれいに撮れる。

しかし、私はデジカメの性能が上がれば上がるほどに、敢えて頑固に一眼レフにこだわり続ける。

そこには「老化防止」という様々な機能が「感動」という果実を実らせているからである。

4月20日例会：「ロータリー雑誌月間」

卓話「警察人生を振り返って」 前新潟県警察本部交通部長 渡辺 守様

4月27日例会：卓話「県央地域の経済・企業動向と課題」地域経済研究家 鈴木照司様

5月4日例会：休会 国民の休日

5月11日例会：地区協議会報告会

5月18日例会：卓話予定

5月25日例会：休会（国際大会と振り替え）

6月1日例会：家庭会合報告会

6月8日例会：卓話予定

6月15日例会：クラブフォーラム（次年度）

6月22日例会：今年度を振り返って